

目次

□教育の一面	藤井利譽
□甘藷先生(青木昆陽)	下村三四吉
□近世日本畫に於ける二運動の消長	澤村專太郎
□青年より見たる青年期	蚊泉靖子
□横須賀港の沿革	細田劍堂
□謝皇太子巡遊山陰(代)	竹田みち
□祝辭(代作)	尾上柴舟
□病院にて(歌)	L、L、S、T、
□秋草、秋の鳥(歌)	千葉安良
□夕の儘に(歌)	わがな
□身の儘に(歌)	粒木つね
□六疊より	S、T、
□中禪寺に行く道	
□國分寺まで	
■雜報	□會計報告
■研究	□日光廟の建築
■記念附録	□回顧四十年
	□會員動靜

教育の一面

藤井利譽

人が世の中に出て活動するには、其の爲の準備が必要である。此の活動の爲の準備と云ふ事は、言ひ換へれば人が其の精神を修養する事によつて得られる所の心の落ち付き、即ち、所謂安心立命の境地を得ると云ふ事である。精神にこの落ち付きがあれば、従つて其の生活は安定であり、且つ、常に一定の目的に向ひ一定の主義方針のもとに活動することが出来る。此の精神の落ち付きは、宗教によつて與へられることも良からうが、教育によつても亦與へらるべきものではあるまいか。然るに今日の教育は、却つて被教育者を不安定な方向に導く傾きがあるやうに思ふ。即ち、今日の學生は、學校に於て種々の知識を啓發され、色々な事を知れば知るほど、人生に對して種々の疑惑を生じ、其の生活に不安を感じて精神には更に落ち付きがなく、常に動搖し勝ちな不安定の生活をする。これは現今教育界に於ける根本的の欠陥であらうと思ふ。

之に對しては幾多の方法があらうけれども、彼等をして、その現在を遠き將來に續くべき現在として、常に満足し安心して進んでゆく様に導くことが根本である。それ故日々の學習に際しての精神状態の如きも、生徒自らそれを樂しみ安靜な心で學習する様に導くべきである。もし彼等が穩かな精神状態を保持し得ぬ様